

第3回学校運営協議会 記録

1 あいさつ

委員長：地域コーディネータ会議に参加。コーディネータの任期が短くなっている。
（経験のある者にも）意義が感じられる主旨で開催されるとよい。

校長：夏休みがあけ、子どもたちが元気に登校しホッとしている。
登校が難しい児童も来れる時間ができた。
職員もいろいろな研修を行い、前向きに、成果があらわれるよう努力している。
9月は実習生が1名来ており、授業を行う。

2 協議事項

校長

（説明踏まえ）

- ・土日の勉強時間少ない
- ・非認知能力 これからのびしろ
- ・読書 思ったより低かった
- ・新たな学びについて（全国と比べると）低い、今後もっと伸びていくはず
授業改善に取り組んでいる

橋本

（新たな学びについて）本市がスタートが遅れているのか、都会はもっと進んでいるのか。

校長

ハード面では整っており、教職員は対応中である。

岸

国府小は10年に一度くらい良い成績になる。自治体の取り組み方が違う。

そんなに気にしなくてよいのでは。

（日頃の支援ボランティアの様子から）3，4年生で学力の差が出ているように思う。
ここ（中学年）に丁寧な対応できれば追いつけると思うので、もっと人的支援が必要。

校長

非認知能力という言葉が出てきた。

学校も頑張っているのに、家庭でも意識をしてほしい。

中学校では遅い。保護者と話し合う機会を持ちたいと思っている。

本当に必要とする保護者はその機会を持ちにくいことが多い。

岸

PTAなどで呼びかけてはどうか。

平子

こどもの良いところは褒めている。忙しいときでも時間を作って話を聞いている。

打田

学力優位の学校でも、社会的人間的な問をしたときに上位がとれるか。

学力が全てではないと思う。

校長

スマホ教室、ぐるぐるウィーク（授業公開研修週間）

ぜひ委員のみなさんも来てほしい。

教育支援課（加藤）

- ・学長の成績について国語が全国より良いというのは非常に良いと思う。

まだまだ国府小は伸びしろがある。

近年はテストのハードルが上がっている。

資料を読み取って答えを導き出すという方式になった。

5Pは許容範囲で大丈夫。

この結果から、弱い点を上げる授業改善をしていくことを大事にしてほしい。

- 平日の勉強時間が長いことはすごいこと。

土日を分ける意味は？と質問があったことがある。

平日宿題が終わっているので、土日はしないのではないかと。

自主学習の仕方を考えることが大切。

- 非認知能力について、学校からも必要だが、PTAなどでもからも発信してほしい。

地域のイベントのあるときに、その中で発信してはどうか。

家庭でのこどもとの会話を確保してほしい。

地域の人の声掛けが次の日のパワーの源に、エネルギーになる。